

## 研究テーマ

学ぶ意義を考え、学びに向かう力を育む授業改善  
ICT 機器の効果的な導入

## 学校研究としての取組

### これまでの学校研究

平成 30 年度

「主体的・対話的で深い学び」  
を生み出す単元構想

令和元年度

深い学びを実現させる「問い」  
の工夫

令和2年度

「学びに向かう力」を育成する  
学習評価～自らの学びを振り返り、  
調整させる工夫～

### 令和3年度の3つの柱

#### ①学ぶ意義を考え、見出すこと（各教科の取組）

ア、主体的に学習に取り組む態度を可視化する振り返り  
イ、「問い」工夫のある授業

#### ②主体的・対話的で深い学びを豊かにする ICT の効果的な活用

ア、これまでの学びの良さの上に立った新しい学び方の創造  
イ、附中版 ICT 学習スタイルの構築

#### ③「生徒と共に創る授業」の推進

ア、「附中×GIGA」（附中版 GIGA スクール構想）の推進  
イ、資質・能力（情報活用能力）の設定・共有

## その他の実践

- 1、学びの見通しを持たせるポートフォリオとしての手帳の取組
- 2、ICT 導入および推進に係る制度設計（ICT 推進委員会との連携）  
ICT 端末の管理に関することや使用規定に関するなどを提案し、ICT 端末導入を推進する  
ICT に関するルールを生徒自身が考える ICT 活用委員会（仮称）を組織するなどの基盤づくり  
授業において生徒が互いにサポートしあう体制（生徒 ICT サポーター制度（仮））の導入
- 3、授業にとどまらず学校生活のあらゆる場面における ICT の活用の推進  
「デジタルかアナログか」ではなく「デジタルもアナログも」の意識を定着させる  
生徒会活動に ICT 機器を積極活用する支援
- 4、「すらら AI ドリル」や「MEXCBT」の積極的活用  
これまでの PBT を目的に応じて CBT 化のすることができるかを検証する
- 5、タイピング能力の向上に向けた取組  
e-typing master を用いて到達度を確認する
- 6、HP 未来を創る「附中×GIGA」による実践の発信  
研究紀要の新しい形を模索（働き方改革におけた試みとして）

## 3つの柱 内容説明

### ①学ぶ意義を考え、見出すこと

「学ぶとは、将来に役立つ資質・能力を身につけようとする」という前提に立ち、生徒が自ら学びに向かうための支援はどうあるべきかを実践を通して考える機会とする。

学ぶ意義を実感している状態

学びの経験を次の学びや行動に生かそうとする生徒の姿

生徒一人一人が見出した学ぶ意義は、「もっと調べてみたい」や「次はこれを考えたい」といった 好奇心を生み、次の主体的な学びにつながるであろう。また、主体的に取り組んだ経験を積み重ねることで肯定的自己理解がすすみ、主体的な判断の下に行動し、他者と共によりよく生きようとする「自主・自立の精神」の涵養につながると考える。

#### ア、主体的に学習に取り組む態度を可視化する振り返り

各教科等の学習内容から「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」といった学びを振り返り、「何ができるようになったか」という変容を実感しながら、今の学びが将来どのようにつながっているかという学ぶ意義を見いだす取組を単元計画に位置づける。

※学習の成果を実感するレポートやポスターなどを含む

#### イ、「問い」工夫のある授業

「問い」とは、子どもが頭を働かせるよう促す仕掛けと考える。『教師の学び方（澤井先生著書）』

見方・考え方を働かせたり、主体的に取り組んだり、対話的に考えを広げ、まとめたりする経験を通して、各教科のめざす資質・能力をつけたい。

本校では、「問い」（学習問題、本時の課題、本時の問い、ねらい、めあて、発問など）を目的に応じて次のように単元計画・授業に位置づけることにしている。

##### 「問い」の工夫Ⅰ

めあて、学習内容が生徒に届き、共有させ、主体性を生むための手立て・プロセス

##### 「問い」の工夫Ⅱ

深い学び（単元の目標達成）に迫るための手立て・プロセス

今年度の学校研究を、「ICTの活用」に焦点化する中において、ICTを使うこと自体を目的としないように上記①の内容を意識して授業改善に努めることとする。

## ②主体的・対話的で深い学びを豊かにする ICT の効果的な活用

「ICT 端末は、学びを豊かにする学習道具である。」という考えのもと、積極的に生徒の使わせ、慣れさせていく中で「どの場面で」「どのように」活用すればよいかを授業で実践し、その効果を検証する。

実践のキーワード

「デジタルかアナログか」ではなく「デジタルもアナログも」

### ア、これまでの学びの良さの上に立った新しい学び方の創造

これまで培ってきた教育活動におけるツールを ICT というフィルターで見直し、より質の高い、豊かな学びにつなげる実践をおこなう。「何を再構築して何は変えたくないか」を念頭に置いて、今まで学校教育で積み重ねた財産をそのまま継承すべきものか、ICT を活用し形を変えてつなげるべきかを考え、学校教育の新しい形を模索するなかで、自分の判断で目的に応じてより良い方法を選択することができる生徒の育成をめざしたい。

### イ、附中版 ICT 学習スタイルの構築

学びのイノベーション事業 実証研究報告書（H26）をもとに ICT の活用実践をおこなう。

実践事例は、HP において「未来を創る附中×GIGA」として公開し、機とニーズを捉えて発信することで新しい研究紀要の形を模索する。

積み重ねた実践をもとに、附中版 ICT 学習スタイルとして整理する。

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>		<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>	
<p><b>A1 教員による教材の提示</b></p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p><b>B1 個に応じる学習</b></p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p><b>B2 調査活動</b></p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p><b>C1 発表や話し合い</b></p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p><b>C2 協働での意見整理</b></p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p><b>B3 思考を深める学習</b></p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p><b>B4 表現・制作</b></p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p><b>B5 家庭学習</b></p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p><b>C3 協働制作</b></p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p><b>C4 学校の壁を越えた学習</b></p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

### ③ 「生徒と共に創る授業」の推進

「学びつづける」ためには、生徒が自ら行動することを促すべきである。

コンピュータを使うこと自体を目的とするのではなく、ネットワークを活用して情報や知識を共有しながら問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりすることを目的とする道具であるという意識をもたせるための取組を実践する。また、GIGA スクール構想の理念を保護者に理解していただき、協力体制を構築する。

#### ア、「附中×GIGA」（附中版 GIGA スクール構想）の推進

ICT 活用に関するマナーやルールを考える ICT 活用委員会（仮称）を組織するなどの基盤づくりや授業において生徒が互いにサポートしあう体制（生徒 ICT サポーター制度（仮））の導入などを通して、生徒一人一人が「附中×GIGA」の主役であることを意識させる。

#### イ、資質・能力（情報活用能力）の設定・共有

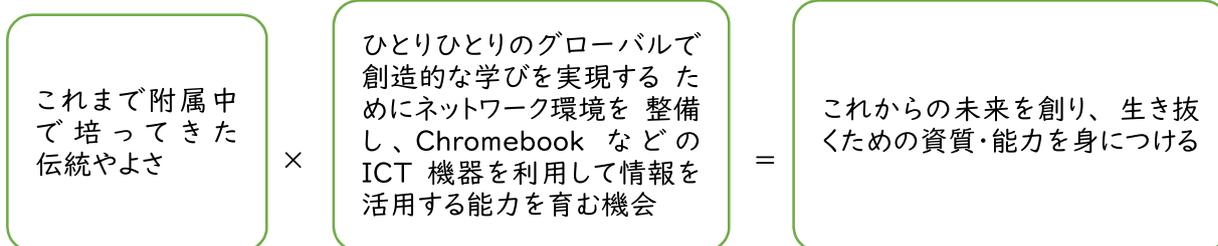
A 情報活用の実践力	B 情報に関する科学的な理解	C 情報社会に参画する態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT の基本的な操作方法がわかる</li> <li>情報を根拠として話し合うことができる</li> <li>課題や目的に合わせて情報を集めたり、整理したりする</li> <li>受け手の状況を考えて伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい情報を読み取る</li> <li>情報を正しく扱ったり、評価・改善したりするためのプログラミング的思考を身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラルを身につけ、発信する情報に関して責任を持つ</li> <li>新しいこと（情報社会の創造）に挑戦しようとする</li> </ul> <p style="text-align: right; color: red;"><b>指導の重点</b></p>

#### 「附中×GIGA」＝附中版 GIGA スクール構想

かけ算では、どちらも正でなければ正にならない。ひとりひとりが正しく使うことでより良い効果を生みたいという願いを込めている。

端末を使うこと自体を目的とせず、ICT の良さを理解して自分の生活リズムの中に取り入れることができる生徒を育成する。

附中×GIGA  
授業×ICT  
生活×ICT  
...



#### 【ICT の良さを活かすことができる人になるための心構え】

可能な限り制限を取り除いた中でも ICT を正しく、より良く利用するスキルと態度を磨きつづける

- ① 情報モラルについて正しく理解する。（ICT 端末を扱う者としての態度＝自己責任を自覚した行動）  
「できる」からやって良いではない。「できない」からやってはいけないではない。⇒ 「する」か「しないか」が大事
- ② 目的に合う正しい活用をする。（誘惑に負けて手遊びの道具にしない）  
学習道具として正しく使うことは、文房具などと同じである。
- ③ 自分を正しくコントロールする。  
普段の生活でしないようなことは、当然クラウド上でもしない。「ダメなことはダメ」といえる。
- ④ ICT を活用することによる実生活への影響をイメージした行動をとる。